

## NBRP（物理リソースについて）

日本の生命科学研究を支える基盤として長年機能してきた。単なる支援ではない。  
日本のリソースを使ってもらえることで日本のプレゼンスも向上。  
しかし、現行制度のままでは持続的運営および国際競争力の維持が困難となりつつある。

### 事業の継続的運営

各拠点の状況に依存し、長期運営が不安定  
人材雇用の短期化、設備投資の困難さ  
リソース維持には安定した技術職員、データ管理人材が不可欠  
質の担保（まじめすぎ？）

### 基盤インフラとして

プロジェクト型評価は困難  
理想的には恒久化  
財源の安定的確保  
人件費増や物価上昇を踏まえた受益者負担のあり方  
野生系統や非モデル生物のリソースとしての意義  
ゲノム情報リソースとの連携

## BINDS

### 高額設備の維持管理

支援事業として日本の基礎研究のサポートに大きく貢献している。

クライオ電顕などは高額化・短寿命化しており、個別研究費では維持困難。（3期目なので）

安定的な運用のためには、機器の更新とともに設備維持費・保守費を含めた中長期の維持体制が必要。

BINDS以外の機器も統合して、日本全体で有効活用できないか？（Cryo-FIB-SEMなど、律速となるステップがある）。

中国深圳市の南方科学技術大学にはクライオ電顕（Titan Krios）が5台あり、深圳市が支援している。

### 分野・機器の拡充

ボリューム（3次元）電顕は投資が必要だが日本は遅れている。

非専門家への技術提供が重要

### PIの世代交代

長いプロジェクトなのでPIの交代が不可欠。

若手も育てているので、Co-PI制度を導入するなど？

### 技術支援者のキャリアパスと身分の不安定さ

大学や研究所の恒久的ポジションの技術員等のBINDS事業への参画